

2023年度 継続事業推進委員会

委員長予定者 石垣 徹明

1. 運営方針

私は、僧侶という職業柄9年間京都で生活した経験があります。京都に住む方たちは、日常生活の中にある多様な「ヒト・コト・モノ」とのつながりを大切にしていました。京都では、家の軒先に水の入った赤いバケツを置いておく習慣があります。街中の路地が狭く、家が密集していることから初期消火に対する意識が高い地域でした。自分の家だけでなく、近所で火災が起きた場合も駆けつけ消火にあたるための習慣です。このように、身近にある日常を大切に思う気持ちは地域への愛着を感じさせる習慣でした。

熊谷市では、価値観の相違やライフスタイルの変化により自治会への参加減少や近所付き合いなど、地域住民同士のつながりが希薄化してきている現状があります。熊谷にも京都と同じように多様な「ヒト・コト・モノ」が存在し、熊谷を生活圏としている方々は、それぞれがつながりを持っているはずですが、しかし、身近にある日常生活の中でつながりに気づき地域に対しての愛着を感じるのには簡単ではありません。だからこそ地域で共通の課題に取り組むことで、地域住民が地域とのつながりに気づきまちへの愛着を感じるきっかけになると考えます。

そこで本年度、継続事業推進委員会では「ジモトの主人公」をテーマに運動を推進して参ります。熊谷に住む地域住民・熊谷を生活圏としている方々の、熊谷での日常を大切に思う気持ちをジモトとし、防災・減災を地域の共通課題として広く浸透させていきます。また災害救助の際に、重要になる「自助」「共助」の精神を知っていただき、地域住民同士のつながりの大切さを理解していただきます。ジモトの主人公として熊谷に関わる人達それぞれが熊谷の多様な「ヒト・コト・モノ」とつながる事業、「熊谷ジモト化プロジェクト」を実施すること、また地域のつながりをより強める為に民間・行政などのパートナーシップの声を集め、有事の際に実際に使える防災ツールの考案をして参ります。そして、熊谷に関わる方々の熊谷への愛着を感じ高めて参ります。

「自助」という確かな力、その力が「共助」として結び付くことで今以上に大きな確かな力となることで、希薄化している地域のつながりを強め、平時から地域と人、人と人とのつながりがあるまちになります。地域住民・熊谷を生活圏とする方々に熊谷がジモトとして認識されることで地域内のつながりが強まり、ジモトの主人公が増えた先には、愛着を感じるまち熊谷になると確信します。

2. 事業計画

- (1) 共助力のあるまちづくりを知ってもらう例会の実施
- (2) 地域とのつながりを創る「熊谷ジモト化プロジェクト」の実施
- (3) パートナーシップとの防災ツールの考案
- (4) 一年の運動の成果と課題を熊谷青年会議所メンバーに報告し引き継ぐための例会の実施